

今後の見通しのポイント

夏シラス：前年並～上回る。
 カタクチイワシ：前年並～上回る。
 マイワシ：不漁であった前年並。

1. 海況の概況

○水温(大阪湾、10m層)

1 月以降の大阪湾の 10m 層水温は、2 月と 3 月（平年並み）を除き、高めで推移しています(図 1)。気象庁による 6～8 月の近畿地方における天候見通しでは、気温は平年より高くなる確率が 70%、平年並となる確率が 20%と予想されていることから、今後の水温は平年並～高めで推移すると考えられます。

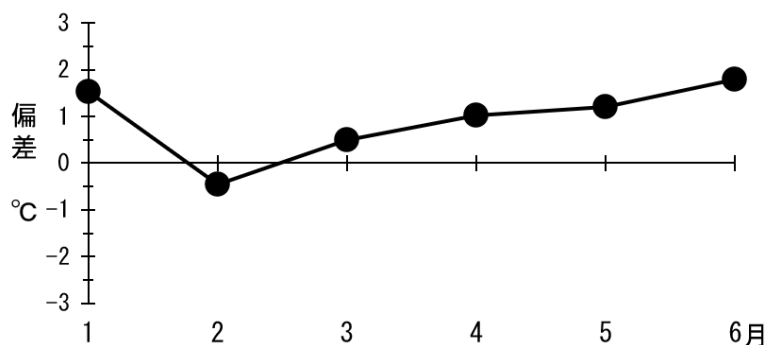


図 1 大阪湾の水温平年偏差 (10m層、20 定点平均値)

○黒潮(潮岬正南沖)

潮岬沖の黒潮は、昨年 10 月以降、それまでの離岸傾向から接岸傾向に変化し、本年 5 月まで接岸傾向が続きました(表 1)。国立研究開発法人水産研究・教育機構の情報によると、漁況予報期間である 6 月中旬～8 月の潮岬沖の黒潮は概ね接岸傾向で推移すると予測されています。

表 1 潮岬沖黒潮の離岸距離						単位：海里(1海里=1852m)						
年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2023年	171	190	188	126	195	191	171	145	145	100	119	104
2024年	93	115	136	121	99	95	85	96	133	109	119	136
2025年	160	189	118	108	73	41	49	54	30	20	20	23
2026年	19	20	19	20	25	30						

※本年 6 月は上旬まで、網がけは離岸傾向を示す

※表中の値は海上保安庁「海洋速報」のデータから算出

2. イワシ類の漁況、卵の出現状況と予報

(1) 夏シラス（6 月後半～8 月）

・春シラス（6 月前半まで）漁況の概況

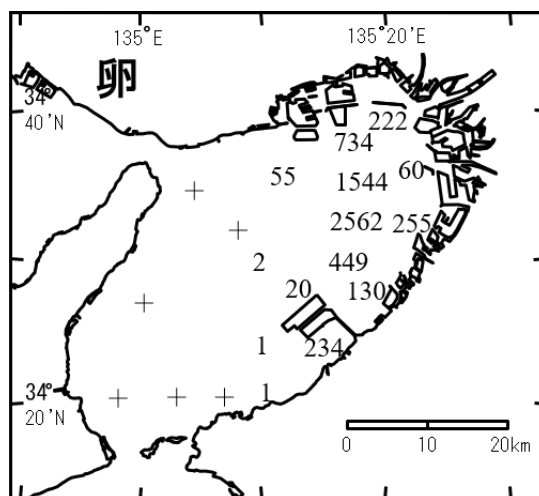
本年の大阪府における春シラス漁は、4 月 20 日から本格的に開始されました。黒潮は潮岬沖で接岸状態にあり、紀伊水道におけるシラス漁も好調で、外海から大阪湾へシラスの補給が期待できる状況の中で漁は盛んに行われました。さらに、5 月初旬には湾内発生と考えられる群の加入があり、前年同時期に比べ漁獲は好調に推移しています。なお、シラスの種組成は、4 月末から 5 月末まではカタクチシラスが 95%以上を占め、6 月以降はカタクチシラスのみとなりました。

・カタクチイワシ卵の出現

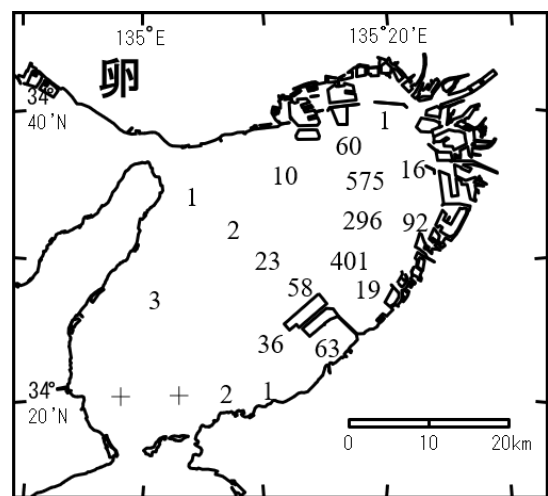
本年のカタクチイワシ卵の採集数は、5 月はプランクトンネット 1 曳網当たり 313 粒、6 月は同 83 粒でした。これらを前年、平年と比較すると、5 月は前年の 55%、平年の 377%、6 月は同じく 35%、77%で、5 月は前年を下回って平年を大きく上回り、6 月は前年および平年を下回りました（表 2）。卵は、湾北東～中央部に多く出現しました（図 2）。なお、カタクチイワシの稚仔については、5 月は前年の 52%、6 月は 23%で、両月とも前年を下回りました。

表 2 カタクチイワシ卵の採集数（本年は速報値）

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平 年	0	0	0	9	83	108	42	39	25	9	4	0.4
過去5年	0	0	0	45	450	274	94	150	55	35	24	12
前 年	0	0	0	1	566	239	44	156	82	44	69	61
本 年	0	0	0	23	313	83						
平年値：1985-2024 (40年) の平均値						プランクトンネット 1 曳網当たりの採集数（粒）						



2026 年 5 月



2026 年 6 月

図 2 カタクチイワシ卵の採集数（プランクトンネット 1 曳網あたり）

・ 漁況予報

大阪湾の夏シラス漁では、外海発生群(紀伊水道を經由して大阪湾に来遊する群)が春シラス漁期に引き続いて漁獲されるのに加え、大阪湾内発生群がシラスとなって漁獲物に加入します。

夏季シラス漁期における潮岬沖の黒潮は、概ね接岸傾向で推移すると予測されており、和歌山県におけるシラス漁は、5月末まで好調に推移している模様です。これらのことから、今後も外海発生群の補給には期待が持てる状況です。一方、大阪湾内発生群については、6月の卵稚仔の出現状況が前年および平年を下回っているものの、6月中旬現在までの漁況の推移から、以降も好調な漁獲が期待されるため、前年並～上回る水準になると推測されます。

以上のことから、**本年の夏シラス漁は、前年並～上回ると考えられます。**

(2) カタクチイワシ

大阪湾におけるカタクチイワシ漁では、漁期当初は前年発生 of 1 歳魚が、その後、春季にシラスとして加入した 0 歳魚が漁獲の主体になります。

前年発生 of 1 歳魚(体長 10cm 前後)については、標本船の出漁回数が少なかったこともあり、本年春季における漁獲は前年を下回りました。一方、0 歳魚の加入については、本年の春シラス漁は前年より好調であったことから、前年を上回ると予測されます。

これらのことから、**本年のカタクチイワシ漁は、前年並～上回ると考えられます。**

(3) マイワシ

マイワシの全国漁獲量は 1988 年に 450 万トンもありましたが、2005 年には 3 万トンまで減少しました。その後は 3～8 万トン程度の低水準にありましたが、近年は 70 万トン近い漁獲がみられています。

大阪府においては 1987 年からマイワシ漁獲量に減少傾向がみられ、1998 年には最も漁獲量の多かった 1982 年(8.2 万トン)の 1000 分の 1 にまで減少しました。その後、2006 年以降には回復傾向となり、2015 年以降では 1000～2000 トンのまとまった漁が続いていました。しかし、2022 年以降マイワシの漁獲量は大きく減少しました。

本年の春シラス漁では、前年と同様にマシラスの混獲がほとんど確認されなかったことから、大阪湾内への流入は前年と同様低調な水準であったことが推測されます。

これらのことから、**本年の大阪湾におけるマイワシ漁は不漁であった前年並と考えられます。**

今後も大阪湾におけるカタクチイワシの産卵状況については毎月中旬に、また、秋シラス漁の漁況予報については昨年同様 9 月、11 月に再度発表する予定です。参考にしてください。